

## 大学入試の基礎知識 vol.15 【指定校推薦について】

今回は高校生というよりは中学生とその保護者の方に読んでいただきたい内容です。

### 指定校推薦とは？

各高校が、ある大学から指定校に認定されていて、さらに学校長の推薦があれば応募できる入試制度です。指定校推薦は、私立大学を中心に行われ、合格した場合は入学することを確約する「専願」であることも特徴のひとつです。



### スケジュールと応募条件は

7月から9月ごろにかけて、高校内で選考が行われます。校内選考に通ると、11月～12月ごろに試験を受けます。試験は面接や口頭試問、小論文などですが、ほとんど不合格になることはありません。といってもゼロではないので、気を抜き過ぎないようにしましょう。校内選考にも「評定平均 4.0 以上」といった条件があり、基本的には評定平均の高い生徒が選ばれます。評定平均は高校1年生の1学期から3年生1学期までの成績を科目数で単純平均して算出します。私立高校で複数のコースがある場合は、校内実力テストの成績なども加味されることがあります。評定と実力テストを総合的に見て選考する場合は、必ずしも上位コースが有利になるとは限りません。下位コースの成績上位の生徒は、上位コースの成績中位の生徒より、評定平均値が高い場合が多いですからね。

### 指定校推薦枠の例

同じような難易度の公立高校だと、同じような大学・学部の指定校枠があると思われるかもしれませんが、しかし、全く違っているのが現状です。公立3番手、4番手校でも関関同立からの指定校推薦枠を豊富に持っている高校もあれば、ほぼ同じ難易度なのに選べる大学・学部がなく、公募推薦や一般選抜に挑戦せざるを得ないという現実があります。(旧4学区、中堅校のT高校とK高校の指定校推薦枠のリストを比較したときに衝撃を受けました。)

### 指定校推薦を上手く活用するために

高校入学前の段階から指定校推薦を視野に入れて進学先を決める受験生もいます。十分合格できる学校から少し難易度の低い学校に上位の成績で入学。入学後もしっかりと準備して定期テストに臨んで高い評定の獲得を目指すといったイメージです。

現実的には、指定校推薦で入れる偏差値最上位の大学が、その高校の合格実績の最上位になっていることが多いものです。つまり一般選抜等で、その大学・学部合格した生徒がゼロということなのです。

また、指定校推薦で難易度の高い大学合格を目指して定期テストを頑張っていると、校内選考でダメだったとしても公募推薦や一般選抜でリベンジをすることも可能です。

そして、その高校がどこの大学の指定校推薦枠があるのかは、あまり公表されていません。一部の私立高校はwebサイトにも掲載していたり、入試説明会などで資料を配布したりしてくれます。しかし、公立高校は公表されていないのが一般的です。どうしても知りたい場合は説明会などで上手く聞き出すか、先輩などの伝手をたどって情報を仕入れるしかありません。